

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームいきいき(ハマナス)	評価実施年月日	平成20年9月1日～9月30日
評価実施構成員氏名	星川静代 前川淳子 勝部幸子 村田真美子 松原靖江 日當民子 納谷誠 水本正樹 工藤元子		
記録者氏名	星川静代	記録年月日	平成20年9月30日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>いきいき独自のホーム理念を持ち、「その人らしく安心した暮らし」をうたっており、常に職員が意識出来る様にスタッフルームや目に付く所に掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ホーム理念の掲示と共に、毎朝の申し送りの際に復唱することで理念の共有を図り、実践に取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域、ご家族には季刊のお便りを発行するとともに、ホーム行事(一泊旅行、夏祭り、もちつき等)にも参加して頂き、理念の浸透に努めている。また推進会議にも参加していただいている。</p>	○	<p>家族と職員の連携の為家族会も開催して行きたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の商店や町内会役員などは馴染みの関係が少しずつできているが、一般住民とはできていない。散歩や、公園などで挨拶や声を掛けるなど努力はしている。</p>	○	<p>町内会役員を通じてもっと輪を広げていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>管理者は事業所として町内自治会などに参加している。町内子供神輿の立ち寄りはあるが、その他の活動への参加は十分ではない。</p>	○	<p>町内会会報を通じて地域の催しを把握し参加できるものがあれば参加していきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>キャラバンメイトへの参加や区の連絡会議などでの発表など徐々に取り組んでいる。</p>	○	<p>地域への貢献も考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価、外部評価を取り入れ速やかに改善に取り組み改善している。しかしハード面では直ぐに取り組めない面もある。</p>	○	改善できる様要望していく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>地域の方々と入居者さん、御家族との接点となっている。また地域の方々に当事業所のサービスや生活している入居者さんを理解して頂く機会となっている。</p>	○	今後も定期的に続けていく事が必要。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>札幌市の実践者研修の受け入れを行うと共に、研修や講演会に参加しサービスの向上に取り組んでいる。</p>	○	今後も引き続き研修に参加していく。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>一部の職員にしか制度の理解が出来ていない。必要と思われる御家族には、活用できる様支援してきた(3家族が制度利用)。</p>	○	研修に参加し知識を得た職員から研修報告を受けたり、勉強の場を設けたりして今後も御家族の方々と学んでいく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>管理者や職員は研修に参加し、学ぶ機会を持っている。自分たちの介護が虐待に当たらないか常に話し合い注意を払い防止に努めている。</p>	○	常に話し合いを持ちケアについて等気をつけている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>十分に説明しご理解・納得を得るように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情を受け入れる為の箱やノートを設置し、機会を設け運営に反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月短いお便りや金銭出納帳のコピーや領収証を送付し、個々の報告をしている。又、季刊の新聞に職員紹介を載せ配布している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情を受け入れる為の箱やノートを設置し、機会を設け運営に反映させている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員との面談を行い、意見を聞く機会をもうけている。ユニット会議にも参加し意見や提案を聞き運営に反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況の変化に合わせて勤務調整を行っている。利用者の食事状況の変化にあわせ職員間で十分に話し合い、食事介助の為の勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者一人ひとりに合わせ、口頭で説明してダメージを防ぐよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修を受ける機会を多く持ち受講している。内部研修も勉強委員を選出し、独自の勉強会や往診医による勉強会など行っている。管理者は資格取得の勧めも行っている。</p>	<p>○</p> <p>新人の勉強会を再開しスキルアップを図りたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>8月より、地域の同業者(同GHの事業所もふくめ)との交換研修を開始し相互交流に取り組んでいる。又、9月には管理者、計画作成者の合同研修も行って、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に勉強会を継続していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>福祉部に休憩スペースを設置するなど工夫し、環境作りを行ってはいるが十分といえない。</p>	<p>○</p> <p>休憩時間をとるよう意識付けしていく。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の研修希望を募り、受講の機会を設けている。又、研修会の情報提供も行っている。資格取得を勧め、向上心に働きかけている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談の段階から本人の話を良く聴き、希望や要望を受け止め、不安を解消できる様努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族の心配、困っていること、要望を良く聴き、受け止めると共に、対応方法などを話し、それらの解消に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族が必要としている支援を見極め、他の業種と連携しながら最適のサービスが受けられるよう努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や体験をして頂き、職員や他の入居者、環境に触れて頂いてから、本人や御家族が納得してサービスを利用して頂ける様取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	長年の経験からの暮らしの知識や知恵(漬物の漬け方・季節の料理など)を借りたり、しきたり慣習を教えて頂くなど、支えあう関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	健康状態や日々の暮らしの様子、言動などをお知らせし、情報を共有し共に支えていく努力をしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人とご家族が良い関係を築いていただけるよう、本人にはご家族の思いを伝えたり、家族には本人の思いを伝えるなど、職員は支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの理髪店や美容院に通ってもらったり、地域やご近所との関わりや馴染みの人との関係を大切にしている。	○	入居者さんと共に、自宅付近へのドライブや帰宅できるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、食事の席など工夫している。必要以上に介入しないよう見守り、状況により仲裁に入っている。トイレ誘導や入浴時、気まずい思いをしないように、気遣っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了者はほとんど居られないが、今後生じたときには、これまでの関係を大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向の把握に努めている。本人がどうしたいのかを常に尋ねる努力をしている。		状況に応じて、ご家族と本人、スタッフで話し合う機会を作っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や本人からバックグラウンドの把握に努めると共に、添書等でこれまでのサービス利用経過を把握し活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの暮らしぶりや変化を具体的に記録すると共に、毎日のカンファレンスや毎月の会議で話し合い、把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人への提示は難しいところだが、家族や関係者と話し合い、意見やアイデアを出し、反映できるようになってきている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	至急を要する場合は、後日家族の了承を得ている。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	毎週往診を受けており、医師・看護師と入居者・職員との馴染みの関係ができてい る。往診時や必要に応じていつでも電話で相談し、健康管理や医療面での支援を受 けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい医師と看護師が毎週往診して下さり入居者・職員との馴染みの関係 は築かれている。毎週の往診、年二回の検診により診断や治療を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員の確保はしていないが、往診に同行の看護師に相談しながら 健康管理や医療活用の支援をしている。又、電話でも気軽に相談できている。ホーム 行事にも参加いただき、入居者の暮らしぶりも見ていただいている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合には病院と情報交換・連携し、必要最少限の入院で済むよう努めてい る。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	年に1~2度医師とご家族・管理者・職員との面談の機会を設け、現状説明し今後の 方針について話合っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今後起こりうることを見極め、職員は事業所、医師、ご家族に相談し準備を行って いる。(ベッドの導入、着脱し易い衣類の使用、その他)	○	ご家族には現状を報告したり、必要と思われる方には今後起こりうること の説明を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えは三年以上ないが、住み替え時には、本人、家族、ケア関係者との十分な話し合いや情報交換を行い、ダメージを最小限に抑えたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりに合わせた言葉かけや本人や他の入居者の不快とならないよう、共用部の配置による難しさはあるが、さりげない対応を心がけている。記録に他の入居者との関わりについて記入する時には、イニシャルを用いている。	○	記録等、個人情報に関わる書類は鍵のかかる書庫に保管している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の希望や意思を表したり選択する場面を多くするよう努め、働きかけている。(外出したい、したくない、好きな飲み物を選んでもらう、どこで休みたいか、どんな姿勢で過ごしたいか他)		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自ら希望を表せる入居者は少数になっているが、一人ひとりのリズムやペースを大切に支援している。買い物など即対応できないこともあるが、できるだけ早い対応を心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	職員は毎朝洋服を選ぶのを手伝い、その人らしい身だしなみができる様支援している。馴染みの店に出掛ける入居者さんも居られるが、移動美容室を利用し常にさっぱりとした頭髪でいられるよう支援している。	○	馴染みの理髪店、美容室へご家族の対応で通っている入居者さんも居られる。
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の買い物と共にしたり一人ひとりに合った調理方法・盛り付けの工夫をしている。又一人ひとりの力に合わせ、盛り付け・配膳・食器拭きを共にし、持てる力を保ち続けるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	状況に合わせ支援している。ご家族の協力も得ている。(お酒や煙草の嗜好は無い)		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に合わせた排泄支援を心がけている。入居者が自分で出来ない事は、声のかけ方など、プライバシーに配慮し、さりげない支援をしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日を定めることなく毎日数人ずつ入浴を楽しんでもらっている。業務上の都合で時間帯を決めざるを得ない状況はあるが、個々に合わせタイミングを見て声掛けしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの睡眠パターンをほぼ把握しており、体調や習慣に合わせて休息や睡眠が取れるよう支援している。日中の活動量を増やすなど安眠策をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食器拭き・ゴミ捨て・散歩・買い物・外出支援等で役割、楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で管理、使用できる方に関しては本人にまかせ、適切に使えるよう見守っている。高額の商品品物に関してはご家族に相談し購入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ひとり一人の希望に沿って、日光浴・散歩・買い物・ドライブなどの外出支援をしているが、全てには応じられないことがある。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	レストラン・食堂・ショッピングセンターでの食事など、全員又は数人で、個別にと出掛ける機会を作っている。又、ホーム全体での一泊旅行を行いご家族と共に出掛ける機会も作って支援している。	○	更にご家族に働きかけを行っていき、機会を増やしたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時にはいつでも電話できる事を伝えており、かけている入居者さんは数人いる。手紙を書く方は居られないが、届いた手紙は本人に渡し、必要に応じて音読している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や馴染みの方々の来訪は心から歓迎し、自室・食堂・居間など好きな所で自由に過ごして頂ける様工夫している。又、帰られる時には又の来訪をお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者は研修会に参加し、資料を職員に回覧して禁止の対象となる具体的な行為についての周知に努めている。又、職員全員が拘束しないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアを実践している。玄関とユニットの入り口は、防犯上夜間のみ施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	自立されている方、支援を必要とされている方の個別性を考慮し、プライバシーを守りながら所在や様子を把握し、安全の配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室においてはその人に合わせ危険な物は整理、撤去している。共用部においても、状況に応じて、危険を除く様取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	朝カンファで話し合い、知識や知恵を出し合っていて取り組んでいる。又事故防止の勉強会を行い過去の事故を検証し、今後に活かす取り組みもしている。	○	窒息を起こす危険のある入居者様の為に掃除機に装着する器具を備えた。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作り周知するようにしている。急変時や応急手当の勉強会も行うことができた。	○	前回の受講から年月が経過しているため、救命講習も再受講していきたい。(来年度から随時受講していく予定)
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を年2回、消防署の協力を得て行っている。地域の人々にも運営推進会議を通して協力をお願いしている。	○	地域の方の協力は実施されていないので今後きちんと協力していただける様をお願いをしていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族の来訪時等に現状を報告し、起こり得るリスクを話し、対応策を話し合い同意を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの表情・様子から、変化や異変を感じたときは速やかに情報を共有し、バイタルを測定、医師や看護師に相談、指示を仰ぎ対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての把握・理解は難しいが、薬局からの情報を参考にしながら確認に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い野菜や海藻を食すよう心がけると共に、毎朝ラジオ体操をしている。又、排泄状況をチェックし、心地よく過ごせるよう取り組んでいる。必要と思う方には食物繊維を摂って頂いている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自力で出来ない入居者さんについてはスタッフが個々に合わせ介助し出来ている。しかし毎食後全ての入居者さんが出来ているとは言えない。	○	夕食後は全員に促し口腔ケアをしていただいている。朝、昼にも声がけし促していきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日30品目以上の食品摂取を心がけ、栄養バランスを考え調理している。栄養は十分摂れていると思うが、水分は体調により摂れない日もある。	○	喉つまりしないよう切れ目を入れる、ミキサー食にするなど、一人ひとりに合わせた形態を考え栄養を摂ってもらうよう、努めている。水分については好みの飲み物を提供するなど工夫していく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、毎年入居者及び職員全員が受けている。感染予防マニュアルを作成し知識・対応策を周知すると共に、往診を受けている医師・看護師と連絡を取り都度対応している。	○	流行時には、手すり、トイレ周り、排泄物の処理に気を遣い、予防に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用まな板、包丁は毎晩消毒、布巾は毎回調理後に漂白して、衛生管理に注意している。調理した食物や残り物は都度、すぐに処分して食中毒を起こさないよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物周囲にベンチを設置、花壇を作ったり玄関に表札をかけるなど、雰囲気作りをし、親しみやすく気軽に立ち寄れる工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者さんの安全を考えながら、草木の鉢植えを置いたり、金魚を飼ったり、季節の行事の飾りをするなど、生活感、季節感を感じられる様工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	パーソナルスペースを設けたり、移動可能な籐椅子を置くなどして、自由に過ごせる居場所を確保している。	○	小上がりがデッドスペースになっているので工夫が必要かと思う。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	必要に応じてご家族と相談、調整しながら工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気を行ったり、温度、湿度にも注意し、加湿器を使用したり、消臭剤の使用をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体機能に合わせ、浴室、トイレに手すりを付けるなど工夫している。又、一人ひとりに合わせた食卓、椅子を提供し、安全に動作出来る様工夫している。	○	水周り(特に洗濯室)を入居者さんが使い易いよう改善したい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	何が混乱を招くのか、毎朝のカンファで検討している。又、トイレの表示や居室に暖簾をかけるなど、見分けやすい工夫をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りに花壇や畑を作り、園芸、菜園作りを楽しんでいる。又、テントを張ったりベンチを置くなど、くつろげる環境作りをしている。	○	冬にも外回りにイルミネーションや雪だるま、アイスキャンドルを置くなど見て楽しむ工夫もしている。



V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない  ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない  ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない  ①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 重度の方が多く居られるが、出来るだけ長く現状維持していただくことを目標に、離床時間を長くする・歩行していただくことを諦めない・沢山話しかける等等、スタッフは努力している。